

## 自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 スキルアップ研究会

テーマ 特別支援教育ならではの授業、教材づくりについて考える  
～「学びたい」を支える授業を目指して～

## 取組のポイント・成果

当グループは、同じ学校の職員で構成されている。毎年担当する児童生徒が変わることが多い私たちは、今までの知識経験だけを頼りに目の前の児童生徒により良い授業を提供することが難しく、年度が変わるたびに新たな課題を感じている教職員が多い。また、特別支援教育やICTの活用は日進月歩で変化している状態であることも変わらない。そのため、スキルアップしたい職員のニーズに合わせたテーマで勉強会を開くこととした。

メンバーの経験年数や担当児童生徒の実態は異なるが、目の前の子どもにとってよりよい授業を実施したい、目の前の課題を解決したり教師としての引き出しを増やしたりしたいという共通の願いをもっている。そこで、今年度もメンバーが希望した研修を実施し研鑽することで、それぞれのスキルアップを目指したいと考え、実践した。また、外部の研修も開催されるようになったため、積極的に参加することとした。

## 活動や内容の実際

① 6月30日(木) 17:00～18:00

8月22日(月) 10:00～12:00

「肢体不自由のある児童生徒の体についての基礎研修①・②」

講師：理学療法士 村瀬義彰氏

場所：羽島特別支援学校 会議室・体育館

研修内容：肢体不自由について（理学療法士の視点から）。介助の体験。質疑応答

○村瀬氏の研修から（まとめ）

肢体不自由は医学的に治るということはない。健常に動く筋肉は常に重力に逆らっている状態であり、肢体不自由のある方は重力から影響を受けている。実態によるが変形などは進行していくことが多い。進行を遅らせるという視点で進めていくとよい。学校教育で行う自立活動はPTのリハビリではない。PTのようにできないと悩まず、教師と子どもの温かい関係の中でできることに自信をもって取り組んでほしい。

&lt;参加者の感想&gt;

かゆいところに手が届く内容だった。今まで「これで大丈夫なのかな?」「怪我しないかな…」と不安になりながら支援していたが、研修を受けてその不安が減った。それと同時に、自分はまだまだ知らないことが多く、勉強が必要だということも分かった。

&lt;その他&gt;

メンバー以外にも肢体不自由のある児童生徒を担当する職員の参加が多くあった。肢体不自由のある児童生徒は学校全体としては比率が少ないこともあり、校内研修の機会が少ない。また、コロナ禍においてリハビリ見学にいけないなど専門家との連帯がとりにくいこともあり、悩みを抱えている職員が多いことが分かった。積極的に担当児童のことを講師に質問する参加者が多かったこともあり、このような研修にニーズがあることが分かった。



② 7月29日(月) 13:30~15:30

「コミュニケーションアップ講座」

講師：JUNO代表 柴田朋子氏

場所：羽島特別支援学校 体育館

研修内容：コミュニケーションにおける相違について、  
ワークを通じて学ぶ



○柴田氏の研修から(まとめ)

コミュニケーションとは話し手の「つもり」と聞き手の「だろう」というお互いの思い込みで行われているので、相違があることが前提である。円滑にコミュニケーションを行うには、その前提があることを念頭に行うことが大切である。

また、グループで話し合い答えを出すことができて、それぞれの思い(達成感や満足度、貢献度等)が違う。円滑なコミュニケーションとは正答さえ出せばいいというものではない。

<参加者の感想>

相手とコミュニケーションをとっていくことで見方や考え方が分かります。うまく物事が進むことが分かり今後とても活用していけると思った。自分の考え方や、他者とのかかわり方の癖を改めて知ることができてよかった。今後、仕事だけでなくプライベートでも今回研修で学んだことを生かしていきたい。



③外部研修 筑波大学公開講座

11月19日(土)~20日(日) 自立活動に活かす動作法実習

研修内容：明日からの授業に役立つ、動作法の理論に関する講義や実習

<参加者の感想>

子供の体をみるポイントについて実践を交えて具体的に知ることができた。肢体不自由のある子どもの授業において、体のふれ方に疑問や不安を感じていたが、自信をもって児童に関わることができるようになりとてもよかった。

1月6日(金) 自閉症のある子どもと音楽(オンライン)

研修内容：知的障害を伴う自閉症児一人一人の子どもに応じた音楽の授業づくりについて。

<参加者の感想>

実践報告から音楽科の段階的発達についてや、評価の観点、教材の選定の仕方などを改めて確認することができた。また、ヒントになる実践方法を知ることができたので、今後の授業に活かしていきたい。

④随時 グループ内実践報告会/グループ内伝達講習

研修内容まとめ…各課題に応じ資料を活用し、教材や授業研究の報告会、伝達講習を小グループで行った。村瀬氏のアドバイスを参考に児童の座位を見直したり、柴田氏のワークを授業に取り入れられるよう検討したりして、伝達講習を行い、授業内容を検討した。

<参加者の感想>

研修を活かして授業や教材研究に活かすことができた。さらに学ぶ意欲がわいた。等々

## 今後の課題

○研究の課題

研修自体は構成員のニーズに合っており、満足度は高かったが、継続的に受講したいニーズに応えることができなかった。また、講師の選定・依頼に困難さがあり当初の予定と変更があった。

○今後の方向性

構成員以外の教員からも参加の希望が多い研修を実施できているので、今後も自主研修を継続して行えるように検討したい。また構成員の満足度が高いため外部の研修にも積極的に参加したい。継続希望のある研修については、その年のニーズを確認しながら実施できるようにした。

○還元の方法

勤務校において研修資料の共有や、資料を活用した自主研修を開催する。